

オオニシ先生が 医療を語る

MEDICAL VOICE



オオニシ歯科 院長 大西 正治

岡山大学歯学部卒業。
岡山大学歯学部口腔外科学第二講座を経て、平成4年開業。
※日本顎咬合学会認定医
※お口の健康ネットワーク会員
※高度治療義歯研究会会員
※床矯正研究会会員

専門 歯科

一生自分の歯で過ごすために ～歯周病を中心に～

現在約85%の成人がかかつているといわれている歯周病（歯槽膿漏）は、歯ぐきが赤く腫れるだけの病気ではありません。お口の中を不潔にしておくと、歯についたブラーク（歯垢）が増殖していきます。まず歯ぐきが赤く腫れます。次に歯槽骨（歯のまわりの骨）が壊されて少しずつ溶けていきます。その時に血が出たり膿が出たりします。さらに歯槽骨が壊されないと、歯の支えがなくなり歯がグラグラになり、最後には抜けてしまいます。

歯周病の恐いところは初期段階の自覚症状があまりなく、歯の搖れを感じるころには症状がかなり悪化している点です。サインントディジーズと呼ばれるゆえんです。

ところで
ブラークと
はバクテリ
アのかたま
りです。歯
の表面では
ブラーク1
mgにバクテ
リアが10億
は付いてい
ます。汚れ
がひどい時
にはバクテ
リアが1兆
にもなると

いわれています。歯周病がある部位にはバクテリアに対抗すべく白血球も1分間に100万もできできますが、バクテリアの数に比べると少ないわけです。従つて歯周病予防には、
①ブラークコントロールをしつかりすること（バクテリアの数を少なくすること）

歯ブラシを1日1回はきつちりすることです。忙しいとかできつちり歯ブラシ出来ない理由はあるでしょうが、バクテリアは言い訳を聞いてくれません。

②生活習慣を改善すること
糖尿病、ストレス、喫煙も歯周病に影響を及ぼすことがわかつてきましたし、歯周病が頭痛や微熱の原因となつたり骨粗鬆症の悪化因子になることもわかつてきています。又、歯周病があると、ない人に比べて心臓病が4倍以上起こりやすくなるという報告まであります。

③定期健診による経過観察（メイントナンス）

かつた場合より失う歯の本数が1／3以下に出来たというアメリカの歯科医の報告もあります。

現在よくいわれているQOL（クオリティー・オブ・ライフ）を考えると、一生自分の歯でおいしく食べることができる社会を実現させることは、大きな意味があるように思います。

残念ながら歯をなくしてしまった方々に対しては、インプラント（人工歯根）療法や高度治療

歯周病は細菌の感染症であり、活動期と静止期を繰り返しながら歯のまわりの組織を破壊していきます。痛みがなくなつたらといって中止すると、次回はもつとひどい状態になる傾向があります。

歯周病の治療後、正しいメインテナンスをした場合は、歯周病と診断した後、治療を受けな



歯は一生の友達

あなたの毎日の健康を守る
大切な協力者です